

二力やの光



密教の巻

編輯方針の變更に就いて

御遺稿はまだ餘程残り居りいづれも重要なものに候へ共何分むづかしく素養なき御方には御遺憾と存じ候故然るべき方々に御相談の結果今後は附録としてわりやすき御説法を古き既刊のものの中より再出仕ることに致候間御含置被下度候

目次

六大無碍常瑜伽	一
兩界の關係	七
大日と彌陀と釋迦との關係	二〇
成佛論	二一—二四
附録	一一三

六大無礙常瑜伽

六大

	顯色	形相	性德	作用
地	本不生	黃	方	堅
水	離言說	白	圓	濕
火	無塵 三垢	赤	三角	煖
風	離因緣	黑	半月	動
空	等虚空	赤	團形	無碍
識	了義 不可得	白	圓	了別
				決斷

萬有は此六大六色性相に洩るなし。

一切動植物乃至一塵一毛も此六方面により觀察せられざるものはない。

萬有は此六大と之れが具有する六種の色相が相頼り相無碍して造られたり。

萬物は此六大と六種の現象に外ならず。

六大に法爾と隨緣

法爾とは本性自然の理、隨緣とは相用を云ふ。先づ六大の性徳たる堅濕煖動不碍了別の方面を法爾と曰ひ、方圓三角また黃白赤と攝熟とを形色作用の方面を隨緣と曰ふ。吾人の目撃する大地とか動植物を隨緣。炭酸窒水の如きを法爾とす。

法爾六大は皆活動すれば隨緣の萬物となる。六大の本性は活動的にして常恒不斷に活動せり。此活動の六大の外に靜的の六大別存するものにあらず。故に常瑜伽なり。

即事而眞。隨緣即法爾。即ち眞如即萬法。

六大無碍

六大即ち物心の二元が相頼つて各々成立し相互に無碍するによりて萬物が成立す。

地の中にも他の五大を攝し、非情の金石にも相應の識大を有し、宇宙何物か六大相互の無碍より成らざるものぞ。

此六大の法爾が隨緣によりて有情及非情に種々の階級的差別の相を呈す。六大が無碍する機會場所程度によりて種々の相をなす。

六大の異類無碍とは、哲學に物心一如と曰ふことに歸す。

六大無碍の故に心の方面より觀すれば何物も心ならざるなく、又物の方面より見れば一切物的ならざるなし。物即心、物的を外にして心作用を現はす能はず。心を捨て物的の性用を判別する能はず。

物質の性用に差別あるは識の作用のあるが故に、又精神に種々の差別と思慮分別を生ずるは物質に種々の性用具するによる。

五大と五智が無碍常瑜伽にして分離すべからざるを色心不二物心一如と曰ふ。

六大同類無碍

甲の地大と乙の地大と互に無碍、甲の識大と乙の識大と、即ち人の六大と馬の六大と、また凡の六大と佛の六大と無碍、動植物を造る六大をもてまた人を造る六大となし、相互に無碍感應し、人の識大と佛の識大と無碍涉入して加持感應の力となる。

六大互具各具

六大互具とは一を以て主とし他を伴とし、地大に他の五大を含み、地大一を擧れば他の五大は律隨となる。一塵一滴に一切の世界萬有を具し、人の心に十界を具し、我に宇宙全體を具ふ。我已外の一切は我に伴隨す。我の成立を助けん爲に存在す。相互に皆爾り。重々無碍主伴具足の關係。萬有は六大より成立て同體同質にして其間に主伴無盡の關係を具有せり。一切の中に一切の物を含有し、一物を擧れば一切を見ることとが出来る。

無碍と常瑜伽

萬有は六大の無碍に由つて成立し、若し六大の無碍に間斷あらば各自獨立別存して

居るとすればいかん、多元論か物心二元論に墮す。

單純の精神や唯物質が彼此に散亂し或機會因縁によりて結合し或物を成すとせば、小乗の五蘊假和合論以下の愚()に陥る。

物心一如色心不二の故に常瑜伽と云ふ。即ち相應の義。六大は無碍にして而も常に相應すと。常瑜伽の三字は色心不二を現はす。

六大無碍常瑜伽

絶對觀念が絶對意力によりて實現せらるゝ常恒活動の現相なり。

即身成佛義に

是の如き六大能く一切の佛及一切の衆生器界等と四種法身三種の世間とを造る。乃至六大を以て能生となし、四種法身乃至三世間を以て所生と爲。此の所生の法、上は法身に達し下は六道に及び、兪細隔あり大小差別ありと雖とも、然も猶六大を出でず故に佛六大を説て法界體性とす。顯教には四大をもて非情とす。密教は即ち此をもて如來の三摩耶身とす。四大等心大を離れず、心色異と雖とも其性即ち同じ。色即心、心即色。

- 6 -

六大は法界體性所成の身、無障無碍互相涉入相應し常住不變
同じく實際に住す故に六大無碍常瑜伽と云

即事而真と本不生

事は即ち萬有即ち現象、眞は實在、事に即して眞、現象即實在、轉變無常に即ち不變常住。

現象より見れば轉變無常に於て實體が常恒の活動より現れたるものなれば、現象の實體が常住の遍動なれば、全體の方より見れば常恒不變なり。吾人が呼吸する出入の息が息の方より見れば轉變無常なれども、能生の方より見れば常恒の活動なり。

六大法身(現)

五大の物的は識大と相應無碍にし、唯物なるものあることなし。非情と云ふべき

- 7 -

一切の植物動物も精神を具し、又三大圓融して一物として活動せぬものなし。

萬有は相互の無碍不離加持圓融によりて悉皆關聯せぬものはない。

萬有の外に實在なく萬有全體即ち實在であり法界である。宇宙は一大活動である。

宇宙即ち自身が一大人格である。人格的存在として活動の故に六大法身即ち大日如來。一切塵々悉く大日なり。全體大日にして一切の物々も悉く大日ならざるなし。

吾人が一活動物なると共に吾人が筋も個々の細胞に至るまで一として活物ならざるなく、個人格意義を有して居る。

兩界の關係

胎藏は理。本有平等の理を表し。金剛界は心にて修生差別の智を示す。

胎の大日は唯一の本尊。此本尊より流出分生せる萬象である。諸尊は森然とし嚴存するなれども、攝相歸本する時は大日一尊に歸す。

- 8 -

金の大日は唯一覺體、其下の諸尊は悉く衆生濟化の方便變化。換言すれば此覺體より現れたる各種の妙用であるから、大日一を擧れば他は悉く之に附屬す。大日の外に一佛一尊を見るべきなし。諸佛諸尊は實に無邊なれども大日の部分なり變化なり。

眞言は汎神的多神は遂に大日の一身に歸すと、一佛多身歸する處大日の外に一佛もなきなり。胎の大日は體、金の大日は用にて、二者冥然合一不二。

四種法身と五種法身

密教にては



自證會大日內證自己の

加持會大日か化他の要より出現す

自性身は理自受用は智

他受用身は地上菩薩の爲に出現し

變化身は釋尊の如く凡夫之を見る

等流身は天龍八部等の等流身

興教大師。自性身の他に法身を立て大日即能造と斷せられしは、宇宙其ものを一

大日、一大活物、一大人格と見しなり。

自證會加持會と分別するは。一應の見にて、本來別物の並存にあらず。自證即加持

一身の二方面に過ぎず。

大日とミタ釋迦との關係

歴史的

釋迦を主とす。即ち釋尊が自覺して實在と一致したる境界自身が大日にて、又靈的救濟活動の能力はミタ也。大日もミタも歸する處釋尊。

本尊

哲學形而上的

又絶對を主として論ずる時は絶對の個人的人格的として顯現したるが釋迦佛にて、又絶對に不可思議の威力光明あつて一切を攝取する徳用をミタ慈悲の力にて、釋迦ミタは大日の唯一絶對的作用に過ぎず。

宗教的

信仰的無碍に由て云は、釋迦は宇宙常住の不可思議力なるミタの功徳を教ふる主にして、大日は絶對の本體にして吾人を攝化するものに非ず、一切時中念々に吾人が信念と親密の關係を以て吾人

を攝して宗教的意義をなすものは不可思議の威力ある救濟力のミタの外になし。

吾人の歸命信賴すべきものはミタに限る。

成佛論

成佛とは宗教の終局目的の歸趣したる結果。即ち吾人人類が如來の本願力に由つて、小我を脱して宇宙の大我即ち宇宙大實在に歸着して全然一致したる處。

個體といふ形式によりて拘束せられ個體我即ち肉我の小我の本體を自覺し、無我となり、無我となれば大實在と一致す、大自我が現はるゝ、之佛である。佛とは無我より入て大自我を現はす。小我實現なるは凡夫。此小我丈なくして未だ大我を現はさぬか消極的の佛、所謂羅漢獨善君子。小我をなくして無我で活動するが大我の實現たる菩薩佛である。

即身成佛論

禪の主觀的成佛と、即心是佛と、客觀的成佛、現在成佛を即身成佛とす、即身と言は主觀に偏せざる爲身心共に成佛なり。即身成佛は表德的積極的なり。

理具

即身成佛の第一階は理具の成佛、即ち吾々は十界具足し佛と成るべき資性を具し如實知自心()の六大()の本有具の理を覺りて、智的に此理を信認したるもの。

加持

吾人の三業と絶對不可思議力の三密と相互に加持し涉入し、吾人が正点正語正動の修道と絶對の不可思議力が加はりて、我と本尊と本尊と我と、入我々入、渾然として實際に一致し、絶對の自信力自安力不可思議の作用を獲得、彼此同化し、小力と大力、不自在と大自在、小我と大我との同化する處。

顯得

理具加持の結果とし心身の自在をう。不自在の小我を轉じて、自在

の大活動を惹起す。顯得圓滿究竟真實の成佛とは靈化的大自在の活動。

是三階の實行的如實に如來の三業を實現する位也。

自利々他究竟圓滿なり

無對光

一切衆生色心の實相は皆是ビルシャナ平等智力、無明之を覆ふて覺知せず。若し上根の人如實智の教に遇ふて信解決定、三密相應の觀行を修する時、父母所生身速證大覺位。此に即して法界宮殿帝網の境界也と開覺するを密嚴佛國土上品悉地の相とす。

安養、觀史の往生亦即身成佛なり。彌陀、ミロク皆同ビル、即行者己心中本具の聖尊にして本來平等無差。

五輪九字秘釋に曰く、一切如來悉具大日、ビル彌陀同體異名、極樂密嚴名異處一、妙觀察智神力加持大日體上現彌陀相、一切諸佛實聖天龍八部に至るまで大日如來の體に非るなし。安養觀史同佛遊處、密嚴華藏一心の蓮臺也。

衆生自己の身心を捨て全く如來の自證し給へる無量光土に歸入する時は即ち往生成佛なり。

眞言安心は曼陀羅を體と爲、三平等を以て宗とす、三密を以て行とす。

金剛寶藏を開顯し心の佛國土を嚴淨し遮那の覺位を極め、法身は密嚴淨土に居し、報身は十方淨土に居し、應身は欲界の淨土に居し、等流身は人天阿修羅に等同流現す。

往生即成佛

本尊の三密、本來平等平等にして行者の己心中に涉入相應し、圓滿具足せり。されば本尊淨土の功德全く是行者本具の曼荼羅の功德なり。何の處にか心外の淨土身外の佛界あらん。

本尊の三密行者の三業を加持し感應道交の故に、凡夫有漏の五蘊本尊無漏の三密な

る眞理を顯發し、荆棘瓦礫の穢土さながら衆寶所成の無漏の淨土たる實相を開覺す。之を往生淨土と稱す。而も實は己心本具の曼荼羅中の淨土なれば、行者は不往の相に住し而自心の淨土に往生し、本尊は不來の相にして而も己心の衆生を攝取し給ふ。

淨土は十方に周遍して俱に無礙の境界なり。

成佛

成とは法爾所成にして因緣所生の成には非ず。大成にして小成に非ず。

大日とは是衆生の本覺也。今此本覺を了するが故に大日成佛と云。

○我覺本不生。諸法本初不生を覺すとは、始覺が本有を顯得するの義。自受用身也。是修得始覺智身也。又本覺本有義即自性法身。

大日淨土

大日の淨土は自性法界宮、密嚴國土と稱す。十地等覺の菩薩も大日の加持を離れて猶見聞の境界に非ず。然るを大日如來實の如く自心を覺悟し給ひて、本有莊嚴の淨土を開顯し、十方諸佛共に眞言加持の事業をなし、實際の衆生を度す。其神變不思議の境界を自性法界となし、又密嚴國土となす。淨土二あるに非ず、大日如來一心法界本有の莊嚴の淨土なり。興教大師は十方淨土一佛化土、一切如來悉是大日也と。

皆歸大日

大日とは十方諸佛本地、三世(種覺)の(尊)主、四十二地の所歸、二十五有能度の尊佛陀神明數多ましますとも一佛一尊として大日の差別智身に非るなし。

三劫 煩惱 消極的三階

第一劫。塵妄執。人執品の惑也。此五蘊假和合の身に我見を起す執着なり。心外の諸法に於て實有と執し、萬法の體空を存して空性と相違する妄心也。此心に依て五蘊和合の人體を實有と執して自他差別を存す。顯教の聲聞緣覺二乘の人此惑を斷す。眞言行人愈妄執を度して瑜伽境界に於て無性の相を知て寂然界を證する位。

第二劫。法執品の惑也。五蘊等の法に於て實性ありと執す。生死涅槃二法實有なり

と謂ふ。之を法軌と名く。顯教中三乗教の菩薩此惑を斷す。諸法唯心と了して一切に於て幻化影像の觀を作す。眞言行人細妄執を度し、一切の瑜伽境界皆是唯心影像也と了して、心外に一法なし、自心の性を覺て亦前後際不可得なりと觀する位。

第三劫。無明の惑也。一切法に於て能所ありと執す。平等法界と相違する心也。此心に依て一心と諸法と能所ありと執す。三乗の菩薩諸法唯心義を知ると雖も尙心の影像を離ること能はず、顯教一乘此惑を斷じて眞如平等の理を證して一切の法に於て皆一實の境を知る。

眞言行人、度此感覺諸法、皆入阿字門、證一切法平等無爲住。

如來所住

教主自性身理法身住如來加持法界宮。所住は則自受用智法身。

自性法身、諸佛眞身理智法性自然具足常住法身(法爾自然身)、三世常恒爲從身流出菩薩說三密法、自體法然故曰自性、具無爲之作業、故曰法身、是有理智差別、法界諸法體寂然法爾不改、名理法身、則胎藏、四重圓壇是一切法互相周遍冥然同體、名智法身、金剛界一印會大日是。

兩部 大日

一金剛界則智法身之佛。金剛に堅固と利用二義あるが如く智體又爾生死界中沈淪三界無壞滅、還能破一切煩惱、云金剛界は體義、

二胎藏界則理法身佛也。眞言理は色相莊嚴而本有佛體也、名胎藏有數義、一含藏義、母胎内に性を含藏して之を覆ふ、能一切の功德を含藏して失はず。二隱覆義人の胎内に在て其體を覆ふ如く理體煩惱に隠れて顯現せず。

六大は法界體性にして其自體即法界體性智大日如來也。此宗法界體性人法相好を具す。

六大は法界體性大日如來にして五佛の總體なり。大日と五佛とは開合の不同。

四 曼茶羅 諸德具足して闕減なき義

四曼は能生の五大の色を以て現する象。

一、大曼茶羅。諸尊相好具足身、大は圓滿殊勝義、五大色。

二、三摩耶。諸尊器杖等、三摩は平等義、五大形遍一切處義。

三、法。諸尊種子眞言、一切經論文義、生佛迷悟心心所等也、法は軌持義、一切功能道理等其自性を住持する義。

四、羯磨。諸尊威儀事業等也、カツマは事業上の三曼の上の威儀。

己上四種各備萬德、迷悟染淨差相歷然故云曼陀羅是相大義。

三 密 用 大

一、身密 手作印契及行住坐臥一切事

二、語密 口誦眞言及一切言說

三、意密 心觀本尊及隨事起念一切事業

己上三衆生三業此三業速疾隱密、而等覺難見其事跡故云密。

大日 經 抄

佛自受用法身とは自受用者即智法身也。胎藏界は理法身を能住と爲。智法身を所住と爲。金剛界は之に反す。

大日心王如來とは諸尊德號普門總體なり。故に大日一尊を諸佛と云。

能生本地身と所生の加持身、本末無二無別、中胎加持身自證德より生ずることを明す、是不生而生の義也。

經に如來遍一切常住不滅の身と。

無相法身とは所生の加持身と能生の本地身となり。

無相法身は能生の本地身也。無相とは遮情の無相には非ず、是表德の無相、即ち萬德を具して差別の相なきを無相と云。

住心論に離相の相は相として具せずと云ことなし。

今此心王如來無始無終にして各々安住自法界三昧。

法界宮とは總じて如來加持住處を明す。遍一切處如來加持力の所生なるが故に是法界に稱ふ。理智相應の故に加持と云。衆生の爲に三密を現して見聞悟の利益をなす故に加持と云。衆の機宜に契よて生佛相應の故に加持と云。

心王は自性法身大日心王主伴共居。

宮とは無相法身妙住境、此宮古佛成道之處也、故云宮。

佛地論曰、如實義とは實には受用土、周遍法界、無所不有不說言離三界處亦不可說即三界處。

法界宮周徧法界。

成佛、修得始覺位、心王ビルシヤナ成、自然覺とは是加持身を成さんが爲め。

自然覺とは自證成佛、是本有覺知、異修顯覺、自證常寂體法爾なり、作成に非ず、故に開題に云く法爾所成之成、非因緣所生成。

疏曰、覺自心從本已來不生即是成佛而實無覺無成。

金剛界者兩部不二、金剛法界正覺處、是金剛法界空、古佛成道處、金剛界、金剛は實相智、此智體者如來實相智身、所住宮即受用身故、云金剛界、體義身の義。

佛菩提自證の德より八葉中胎藏身を現し、金剛密印より第一重の金剛手等の諸内眷屬を現し、大悲萬行より第二重摩訶薩埵諸大眷屬を現す。

一、位前普賢、六道凡夫の本覺

顯—普賢三位二、位中普賢菩薩五十位普賢：

三、位後普賢因滿菩薩一人：

因一切有情皆如來藏普賢遍、自體一切衆生本有（）

密—普賢果普賢云建立如來指ニビルシヤナ

一切如來遍法界最妙善理智法身を云

普賢即是一切如來菩提心行願身也

如來とは教主盧遮那遍一切處者横十方は無遍際義、常住不滅、堅三世は無盡義、

無碍光の下恩寵

如來加持住處遍一切處加持力の所生故、實體 大日の佛體にして本地の體なり。大我自在の力より加持身を現す。法界に契よて理智相應の故に加持と云、衆生の爲に三密を現して、見聞悟の利益をなす。

如來一大事因緣とは衆生をして皆本具曼荼を開覺せしめんが爲、

心王ビルシヤナ加持尊特の身を現し時無量法門眷屬天現ニ金剛一身、

如來自證功德三摩耶智印より加持身を生ず。

金界五大成の法界塔婆大日如來と成る。身相白色着五智寶冠。結跏趺坐、住大智拳印、背後有圓光、萬德莊嚴、具足圓滿、從如來頂上、放白色光明、遍照十方世界、拔苦興樂、一切衆生四佛四攝四波羅密、十六大菩薩八供四攝菩薩賢劫十六尊外、金剛部二十天乃至無量無數、菩薩聖衆前後圍繞。

無量光心體

心王とは自性法身大日心王實には主伴共居。四重圓壇は大日心王加持所出の法身。

金剛法界宮一大觀念文。胎藏界は宇宙心、内容を有する全體なり。

佛地論、受用土は法界に周徧し處として有らざること無し。説て離三界處と言へからず、亦即三界處と説べからず。

金胎とは宇宙全體を六日心王即ち即絕對精神とし之に形式を金剛界即ち一大理性とし、胎藏は内容を有せる全體なり。

五大法性の大日如來萬德豐備して四智四行の菩薩は蓮華王の葉上に座、無量内證智三昧佛菩薩眷屬蓮華の上に坐、又隨類變化威德、天は枝葉の上に坐、如是無量佛界曼荼羅具足し、圓滿の遍法界、無所不至、大日即是成三本尊大日如來一也。

ビルシヤ那心王本地法身、獨在法界宮、無邊眷屬とは塵數心數即ち佛果内證智より現する人法等の功德なり。菩提心論、諸尊皆同ビルシヤ那佛身、云是一門即普門、

無對光—心王ビシヤナ自然覺を成す、爾時一切心數如來内證功德差別智印を成す。

附録

盡十方無碍光のなかにあることを信する親愛なる教友までにまうす。

人はみな其本源身體精神も共に法身如來藏より稟たりこれを佛性といふ。人々みな心性は彌陀の法身を根底としながら肉體と共に心も吾我の執著と罪惡の皮鼓を被ること譬へば鑛石の中に金性のあるごとくなり。人々佛性を具備すると共に罪惡も必然的に具有したり。この罪惡の皮を除き去りて彌陀の法身より稟たる自己の眞性を顯現することは是自己の力の及ばざる處なり。いかにして元來賦與せられたる佛性を發顯することを得るとなれば彌陀の聖旨なる本願を仰で信じ彼恩寵に依りて解脱し靈化するの外他に道あるなし。彌陀の本願といふは即ち彌陀の意志なり。あなたの聖旨は法界に普く滿渡りて、常に衆生の信仰心に感應して解脱し靈化せしむる處の勢力なり。あなたの聖旨は處として在らざるなく活動せざる處なきを信仰なき人々は虛ふく風とま

でもおもはでむなく明し察して冥より冥に入ることにてぞある。讚に彌陀の身心は徧法界、映現衆生思想中、是故勸汝常觀察といふころはあなたの眞身と智慧のころとは形こそなけれ何れの處にも實在していまさぬ處こそなけれ徧なくみちわたる處の眞身なれば人々の心想の中に映現するのであるけれども衆生自分信仰の水すまざればこれを知らずして居るのである。能くよく深くころを留め神を凝らして觀るときはあなたの眞身の中にもとより住る我身にしてあなたの智慧と慈悲とにつま

れたる己がころなることがたしかに意識せらるゝのである。いかゞに意を用いてあみだ如來の身心の中なる我身なることを諦かに意識せらるのであらうと問はゞ聖の本願の文に

至心信樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺と云々。上の三句を安心の三心といひ次の乃至十念を起行の念佛といふのである。信者の安心起行にして最も大事のことにあり。

至心とは導師は眞實心と釋し眞實心はもと佛性として自己の根底に潜みて居るけれども我てふ迷に覆はれて人は虛假雜毒の非眞理なるころとなれり。いま彌陀の聖名によりて我の迷なることを覺たるとき眞實心を引おこして給はるあなたの聖旨は純粹なる眞理のみなれば我をすてゝ聖旨にしたがふとき眞實心は顯はれるのである。

虛假雜毒の心にて自分可とおもふはあなたの聖旨を信じ得ざる故である。あなたの聖旨をうれば我てふ迷の雲はれて眞實心の顯はるゝのである。

我執よりおこるころ虚假非眞理にて聖旨より顯るものは眞實心にてあり。あなたは眞理なり非眞理はあなたの反對なるものなり。次に信樂とは信とは深くあなたの聖旨を信仰して疑はず樂とは深く信順してそむかざる計りでなく信樂といふは深くあなたを愛樂するころなり。一切の萬物の中に於て最も深くあなたを愛するなり。我身よりもいのちよりもすべての物よりもあなたを愛するのである。あなたを愛するは自己の眞心を愛するのでありあなたを愛するが故にたとへ肉體と生命とは失ふともあな

たを愛するときは、此精神をあなたの眞生命の中に我を愛し攝取したまふて、無限の光と壽とに同化したまふと吾人は信じます。

人ありて汝若し彌陀を信することを捨てざれば汝は生命を失ふべしと云はゞ余は喜んで生命を失ふとも信仰を捨るに忍びず。其ゆゑは眞生命と肉の生命とは換ること能はざればなり誰かは一の土塊と無價の金剛石と換るものあらん哉。

又一切の萬物は悉く彼の佛の有なり。故に彼を愛し彼に攝せられぬれば萬物は自己の所有となればなり。また我は全體を愛するが故にあなたを愛す。すべての萬物全體は唯ひとり絶對なる阿彌陀佛のみ故にすべての物にこえてひとりあなたを信じ愛樂するなり。欲生とは即ち欲望なり何を欲望するか即ちあみだ佛國なり。あみだ佛國とは一切萬物に超越せる眞理なり。即ち至眞と至善と至美となり。眞善美の靈界最高圓滿の處を神の國或は涅槃界或は淨土といふ。我らが欲望こゝにあり。即ち眞佛のよつぎたらんことを望むなり。すべての物は朽ち壞るゝことあれども眞理の靈界は不變不滅なりといふ圓滿至善の故に報土といふ。

つひに朽はつべきものは最終の目的とするにたらず。非眞理は眞人の欲望する處にあらず。吾らが欲望は彌陀のあとつぎたらんことなり。これ無上の位置に到達して無窮に神のはたらきを以て所有萬類を攝して救済が爲なり。幸福主義の欲望を満さんが爲に彼國を望むに非ず。彼國に生んと欲するも此命終て後はじめて生ずるに非ず。此肉體を轉せずして但天然の意志を轉じて彌陀の新生命に入り彌陀大我の中の自己にして彌陀を離れたる個人なるに非ざるを知り、此身は彌陀の一切處に周徧せる性能を實現せんが爲の身なるを意識して彌陀の意志實現として行動せば足るのみ。もはや眞實彌陀の眞我の中の我として彌陀の生命の中の生命たるを知りこれによつて行動せばこの精神このまゝ無量壽の分身なり。此命を捨て始めて無量壽國に入をまたす。彌陀此目的の爲に我らに法身より此身を分出して人間界に現し出したので、眞に此理を信する時にこの身心本より法身より分出したので、而してまた報身の光と壽とに歸命融合して

五

はじめて眞理が顯はれて來るのである。さればとてこの命終て眞實に淨土なきにあらす。彌陀の實在は眞實にして此世界の假のものゝ如くにあらず不變不壞にして常住なり。この身の果には實在のその眞實妙界に歸入するので、いまは精神が淨土にすみあそぶのであると信すべし。

斷えずあなたの聖旨の實現んやうに聖名を崇めて祈りたてまつらんことを至心信樂欲生我國のむねとす。即ち眞理と愛と望との三徳なり。

この眞望愛の三徳は如來の勅命としてこれを具へざればならぬものなれば能くかへりみて

眞實心なるや、みだを信愛するや、靈界の欲望いかばかりふかきかをかへりみよ。是は安心といふて如來の恩寵に對する信仰心には是非とも具へざるべからざる必要あり。

乃至十念とは

眞と愛と望との意志によりて一心にあなたの聖旨が自己の心に實現せんことを日夜行住坐臥に祈念して絶ざれば、聖旨の實現として内容に顯現して、或は光明と現し來りあるひは慈悲のみこゝろとあらはて漸々にすゝみゆけばみだの中の自己なることが歸に識られてよりは、内面に顯現するばかりに止らず、口には語となりて現れ眞實語愛語となり、身の行爲に現はれては道徳の行爲として菩薩の行とたるのである。

十念とはあみだ佛の聖徳を表彰する聖名を稱へ、聖名によつてあなたの聖旨をうけ、聖旨が内心に現れては、次第に佛知見開發となり心情には融合安立となり意志には實行となり、三業佛の如きの行爲と現るゝのである。これを略して乃至十念の起行門といふ。聖旨を傾て信心まことに熟るときは我もなく彼もなく形質はしばらく別々なれども内心は同じく彌陀の一味の海水なれば、之を諸上善人とも清淨大海衆とも申すことなり。

願くば聖旨の實現せんことを祈りたてまつらんことを。

七

時間は寶なりと知るべし。古人云しとあり、今日學ばずとも明日ありと思ふて明日を頼むことなけれ。今年つとめずとも來年有りと曰ふことなけれ。今年空しく過るときは來年もまた虚しく經るにいたらん。今日より外に勉むる日なしと思ふて時間を千金よりも重きものと知るべし。寸陰を貴みてよくつとむる人は後に必ず國の寶といふべき人と成なり。時間の寶が積かさねて尊き人と成得たりしなり。時間を浪費するものはとても世に功を立つべき人となること能はず。寸陰を惜しみて能く學びよくつとめよ。月日は再び復り來るものに非ざればなり。此尊き時間は聖き如來の賜なれば狼に捨ては罪甚だ重し。如來は貴き時間を與へて尊き人を作らんとす。聖慮にましますことゆめく忘るべからず。

習より善き人を作る。人の心性は神聖なる如來の賜なり。如來は聖き人と爲んが爲に靈性を賦られたり。習慣は第二の天性ともいふて善と惡との反對の性格を作り出すものなり。善き習は靈性を顯發し惡しき習は靈性を覆ひかくし穢らはしき不正なるものとす。此についてはいとけなき時の習はししいと大事なること決して忽がせにすべからず。神聖正義の如來の聖慮にかなうように靈光のなかにありて常につとみよくつとめ、やがて善き習がよき人となりて國家のためにつくし、後には眞善美の極なる國に生れて佛の世つぎとならんこと望しけれ。日々三たびよく省みて、今日のふるまひ心性を汚さるや否や今日のつとめは如何にありしやを知るべし。

三

聖き名をとなへて聖き旨のわがころのうちにあらはれんことをいのり候こと忘れたまうなけれ。

聖きみむねの我ころにあらはるゝやふは如來のみむねは神聖なり智慧なり慈悲な

り。すべての徳のみたせ給ふなり。如來の神聖を我ころに思へば我ころも如來の眞理の光りのなかに良心が自から正しく道徳心となり來るなり。

如來の慈悲が我ころにあらはるゝとは慈とは樂みを與へ給ふこと、悲とは苦みを抜き給ふこと。しかれば如來のみころの顯はるゝ時は、たとひころのなやみのなかに自ら慰安を與へらるゝが故になやみや失て、慈によりて自ら何となくありがたく樂しくやすらかになり來るなり。こなたの陥りたるころに對しては非常なる勇氣をあたへ給ふ。

憤怒のおこりし時はなむあみだ佛の御名によりて御むねのあらはれを念ずるとき大にだめの聲として我胸にあたへ給ふ。

すべての事としていか成ことにも如來より見給へば決してつらひことはなきものなれば必らず我に安きを與へ給ふ。

つねによるこびのころを奮起すべし。よしや身にさまざまの苦難があらうがまゝそのなかに於ても如來の大なる御めぐみをよろこぶことを失ふべからず。

さればとて人の愁を喜ぶにあらず。他人に對してはすべて同情を有つべし。ますます信念すゝむに隨つていか成場合にもうるはしきいろ變らざるように如來はなされ給ふなり。

人は一生の歴史のうちに種々の事を歷て練磨したるものにあらずば完全に精神が發達した立派なる道徳的意志も出來るものにあらず。随分困難をも經快樂をもいか成ことをも通り越していか成ことにも耐得らるゝ精神となり、自ら艱難をも經驗してこそ他人へ同情即ちおもひやりの心も生ずべし。如來の慈悲に安住してぞ耐忍も出來るようになるなり。自らさまざまの苦を經た人は、何ににしても我まゝになり易き心も鍛へられて、いかなることにあふとも精神に於て何にも換がたき御めぐみを得たる身のほどをよろこびて、ますます信心増進してこそ眞の信仰も道徳心も出來得べきなり。

人はいかなる苦難多き身なりともそれを苦にせぬほどの信仰心だに出来得るときは決して不幸福にあらず。

なに事も苦しめぬ如きは全く恩寵獲得してのことなり。如來はあなたを金剛の信實の道徳心を成就せしめむ爲にさま／＼の機會をあたへ給ふことなるをしかと用意し給へ。

あなたを苦しめむためにあらずしてあなたの精神の光をあらはさんが爲なることを忘れ給ふなかれ。

百たび火にやかれ千たびうちたゞかれて鍛へあげたる鐵は正宗の名刀として世に珍重せらるゝことをおもひ給へ。

願はばます／＼御増進あらんことを。

四

一高尚なる理想。二遠大なる希望。三道徳上の制裁。

高尚なる理想。如來の光明は真理にしてよく人に高尚なる理想を興ふ。理想とは自分の目的に對する靈的の計畫なり。將來に對する設計の如き例へば我は女として昔の紫式部の獨立志操を全うせんとか、某夫人の如くに美き家庭を造らんとかいふ如きさて高等なる宗教の光明に上らざる理想は野卑なる世俗的たり。肉のために奴隸となり名利のために屈伏し俗的の氣位は高くとも名利の奴肉の従僕と成ることを免れず。如來の光明によりて高尚なる理想を有する人はよしや肉の生活は卑くとも心情にいと高き一點の光明は内面に赫耀として侵すべからざるものあり。宇宙最高にありて照せる如來の光明に照らされる己が心情たる理想は高し尙し。平々凡々の金にぬかづき財に拜しすべての名利の奴隸とは天地の懸隔あり。即ちいはばいける觀音として其胸懷に如來の光明より輝き來る心情にいと高きいとうるはしきえも言はれぬものを宿すなり。

あみだ佛の聖き光によりて光りかざやく情のするは活けるくわんせおんなり。いける觀音として如來の聖き光より湧きいづる泉のようにいとよき水を胸懷に流注せしめよ。高尚なる理想は即ち觀世音なり。いけるばさつよ高き理想の月は其の頭にまし／＼ててらすにあらずや。觀世音よその麗き花は家の庭に咲き其覆はしきを廣き世に薫することよ。

二遠大なる希望。如來の聖き光りはいかに永遠なるかないかに廣大なるかな。斯みひかりは私共にかぎりなきまでに希望ををこさしむ。斯靈光によりて吾々に眞善美の極樂の望ををこさしむ。世に極樂の生を願ふほど遠大なる望みやある。極樂の世つぎたらんとを希望していか成苦難をも忍んで其望を圓かに満足せしは釋迦尊なり。

吾々は釋迦牟尼の教に隨て淨土の世つぎたらんことを望むなり。吾々はミダの本願に乗じて極樂に生せんことを終局の目的とす。ミダの光明によりて心の更生せんことを一大事とす。

人はかゝる遠大なる希望なしに生活するが故につひに煩惱の奴隸となり肉慾の満足をもて目的とし終身金錢の爲に魂を奪れ、それ已上の目的なしにあさましき希望のため走使せられて苦樂をなめて肉慾我慾の二面に於ていづれなりとも目的達したる時には歡び然らざる時は憂ひなやみ、終局の目的は肉體と共に消果るものとして明朝死すと思へば今日飲食するにしかじなどいふような佛教にはゆる餓鬼根性に墮落す如來は光明によりて吾々に精神上の永遠の生命と無限の道徳に進むべき希望を發さしむ。

其希望とはいかに信仰の目的は佛陀てふ偉大なる人格となる爲なり。釋尊や觀音の如くなることなり。偉大なる人格と成らんには是非至善に向はなければならぬ。如來の光明を力にして日々に歩々に善に向て進みゆくなり。觀音の如き偉大なる聖者と成らんにはいか成難も困苦も是が爲に己が精神の磨けることを歡ばねばならぬ。

鐵も火に焼かれ打鐵へられざれば名劍と成ることができぬ故に佛遺教經には若し人が來りて我を罵詈訛し我を打挫し骨や節が解くるようとも却て之を歡ぶこと甘露を飲が如くに歡ぶものにあらざれば入道智慧の人とはいはれじと説給へり。

いかにして之を甘んじて忍ばれるとならばそれが爲に精神の徳をうることを歡ぶなり。

人は遠大の希望の中に生活が出来れば肉の幸福よりは道德の偉大たることをねがふ。肉の幸福は動もすれば道德に反對することあり。たとへば富貴なる時は傲慢となり。懶惰となり人の苦に對して怒りなき易きが如し。

五

如來の大なるみめぐみを感謝したてまつる。

聖むねによりて活ける聖なる同胞の幸福をいのり奉る。このごろいかにおひぐらしなされませるや。

聖なるみおやはかぎりなき愛をもてとこしへにまもり給ふことをわすれませぬか。

その、ちはしばらく御目もじをえすうち過し居り候へども定めて御恵ぐみのなかにますく聖きころのいやましぬることならんとはるかに存じあげ候。

教主世尊即ちしやか如來はみころがとこしへに靈ましますばおもひ内にあれば自づから面にはあらはれていつもうるはしき相にましますし如くしやかむに佛の御ころろに高きあみだ如來の聖靈つねにましますばなり。

そのごとくにしやかむに佛を御手本としていかなるばあいにも麗しき色をかえざるようになりましてせうか。如來の聖靈がこのころろに離るゝ時はむねのうちが淺ましくいやしくなり、よしなきことに心をなやめおもひをわづらはし、又はかなしみまたうかくと日を暮らす様をあらして、一日一夜八億四千念のおもひはみな三惡道の花ねをまくことになりませぬ。

それと反對に如來のみむねを慕り御名をとて御慈悲のなかにひぐらしする身は如來の靈つねに我心のうちにましますばたと以外よりなにごとがあらうがまよ、其なかに心も平和にてあれば、いかなるばあいにもうるはしき色がかはらぬようになりませぬ。

わがはくばいけるばさつとしてまた世のもはんともなるやうに御修行のほどこれいのり候。

いづれやと同じようになりかへすかは存じませぬが、天地萬物と共に此身のいのちもみな法身如來のたまものとして、其みちからとみめぐみによりて活けるものとするれば、全體如來は何の爲に此身をいかし給ふのでありませう。また我は何の爲に生きて居るのでありませう。この活ける目的は何の爲でありませう。

如來はみ親にして吾をいかし給ふ。親は子どもの爲に日々のかてをあたへ着物をもさせて子どもに教育をもするのは何の爲でありませう。私の子は落だいしようともまたいか成ならずものにならうとも、日々のかてさへ與へて居ればその他は一向に子どもの爲に目的はありませぬといふやうな親がありませうか。恐らくなからうとおもふ。親の子に對する要求はどうかよき人にしよき精神をもて立派な人物にもならせたと同じく如來みおやは私どもに日々のかて年々の衣物も與へて育つるのであるとおもふ。それ私どもなる子どもにべんとうを與へ下さるは五十年六十年間の人間てふ學校にて精神のうちに聖なる徳をやしなひて私どもをみおやのよつぎたるきよきみくにのぼることのできるやうにとの目的によりてかてをあたへ給ふのでありませう。人間界は聖なるころろをやしなふ學校であります。この聖なる徳をやしなふにはいかゞして養ふなふかとならば、つねに如來の聖きみむねがわがころろにあらはれんやうにいのりていか成ることができてもそのなかに於てやしなふのであります。よしや他人が我をぞしらはこれによりてわが心のみがられることとして心を鍛錬し、すべての苦しみもみ

な一心をきたふる爲と存じて修行のすゝみゆくのであります。

如來はいつもこのころをしけんしてましませばいつもなるべくらくだいなせぬやうに御修養こそ肝心にて候。この世界に出て來たるは遊びに來るにはあらで修行の爲にであります。しかればいか成困難なることも之にうちかつ修行をせば、やがて如來のみめぐみを力としてからは、はじめの程は修行が未熟にてあればこそ困難に感ずるなれ、つひに熟するときは安く忍ばれるように成ります。人間は形ちの上の幸福は眞の福にてはありませぬ。心に於て受くる福こそまことの靈福であります。かたちの幸福は却て道德の爲にやゝもすれば損害をまねきます。

慈悲 歡喜 正義 安忍 謙遜 勤勉

などのすべての徳をもて精神を莊嚴ようにするのが人間のうつくしいのであります。永劫に不朽の光となるのであります。それもやはり如來のみめぐみによりてとげらるゝのであります。故に

聖きみ名をとなへて、みむねのつねにあらはれんやうにいのりませよ。

みむねのあはれをいのるとは

御名をとなへてあなたの尊き思召がわがころのうちに想はれてくる時は、わがころがきよらかに、やすらかに、ありがたく、とうとく、うれしく、よろこばしく、よく、心がひろく、あかるく、うつくしくなるのであります。

如來のおころをわすれて居る時は淺ましき自分ながらはづかしいやうにころにうづまりて居るのでありますが、如來の聖旨がわが想にうかぶ時は雲間よりさやかにてりわたる月の面の現れしごとくに心がはれわたたりて來るのであります。

きみよ。

此日々はきよきみむねによりて修行のために活つゝあることをわすれ給ふな。如來さまは御身のかたちの上の幸福のみをもて御めぐみ下されたのでありませぬよ。あなたこのころのとりやうにて不幸も幸福と轉じ來ります。

如來さまより御あつかりましたる御子さんを聖旨にかなふように御めぐみなされませ。其が御禮であります。

かたちの大切なるはよき精神が宿りて居るからであります。精神は如來より御あづかり申したのであります。

村のすべての婦人たちは同く如來より御あづかり申したる子どもたちのたましひを種々にそだつるのでありませう。

御子さんを村で道德上第一の人におそだてなされよ如來さまへのおつかへ申上るの第一であります。

また如來の聖旨をうけたる婦人の模範として夫に仕ふることを希がふ。願くばいけるくわんせをんとしてはたらかれんことをこそぞまじけれ。

昭和七年二月十三日	印刷	誌代郵税共
昭和七年二月十五日	發行	年二回
編輯兼 發行人	山崎 辨成	
印刷人	小林 七太郎	
印刷所	靜文社印刷所	
小石川區關口町六十五番地	電話牛込五四一九番	
東京市小石川區水道橋二丁目四十四番地		

ミオヤのひかり社
振替口座東京六六八五一番